

第3回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日 時 令和6年7月10日(水)13時30分～15時44分

場 所 余呉小中学校、たかつき認定こども園

出席者 (委員) 水本座長、大橋副座長、西川委員、西田委員、森委員、
中川委員、水谷委員、辰野委員、文室委員、喜田委員
(事務局) 為永管理監、稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員

欠席者 塚田委員、福永委員、

◇余呉小中学校視察 (13時30分～14時30分)

1. 学校から資料に基づいて説明

2. 校内視察

3. 学校から資料に基づいて説明

- ・平成30年度に開校した県下初の義務教育学校であり、今年度7年目を迎える。
- ・本校の経緯は、旧余呉町において平成17年に旧余呉小、丹生小、片岡小が統合し余呉小学校となる。その後、余呉小学校と鏡岡中学校が平成30年に一つになり、余呉小中学校が誕生している。
- ・前期課程だけがスクールバスを利用している。令和6年度は、82名のうち51名(62%)がバスを利用している。
- ・ステージ制を取り入れている。第1ステージが1年生～4年生、第2ステージが5年生～7年生、第3ステージが8・9年生。
- ・独自教科である「よごふるさと科」を基軸に発達段階に合わせた探究活動に取り組んでいる。地域には伝統的な文化があり、太鼓祭りは3年生が中心に学習している。ICTを活用しており、学習の最後には、インスタを使うなどして発信をしている。

4. 意見交換(14時14分～14時30分)

- ・平成30年に統合して、7年間を振り返り保護者からの評価を聞いているか。
→学校評価において、授業などに一定の評価をいただいている。一方で心配されている点もあり、その評価をもとに改善に努めている。
- ・心配なことの具体的な内容は？
→情報モラルの面がある。家に帰ってからゲームをする時間が長いことがあり、減らそうとするが改善が見られない。
- ・PTA活動が活発になり、先生の負担になるということはないか。
→学園生数が減少することは見込まれ避けられないので、昨年度にPTA役員を

- 中心に話し合い、組織をスリム化していただいた。教職員の負担についてもそうならないように変えている。
- ・PTA 組織をなくすということではないのか。
→そういうことではない。
 - ・小規模校の課題として、固定的な人間関係があると思うが、それに対処する工夫はあるか。
→この学園生は、認定こども園から本校を卒業するまで 12 年間同じメンバーで過ごすので、固定された人間関係となりやすいところがある。それを打開する手がかりとして、開校当初に行っていた全校道徳がある。1 年生から 9 年生まで同じテーマについて、グループで討議して発表するというので、コロナでなくなったが今年に復活した。これを一つのきっかけとして取り組んでいる。唯一子どもにとって変わるのは担任や教科指導する教員だけである。
 - ・よごふるさと科は、総合的な学習の時間か。
→総合的な学習の時間である。低学年は生活科の時間を使っている。本校の独自教科として取り組んでいる。
 - ・どのぐらい地域の方と交流や外に出て連携しているのか。
→結構時間的には多い。3 分の 1 から半分くらいフィールドで活動する時間になっている。
 - ・テーマ設定はどうしているのか。事前にあるのか、それとも子どもたちが出かけていつてからなのか。
→これまでの蓄積をもとに見直しをかけながら、前年度に話し合っただけを進めている。合わせて担任の裁量という部分も必要だと思っている。子どもたちがやりたいことをテーマに決めて取り組むという原則にしている。
 - ・教職員配置で教頭先生と養護教諭は二人配置だが、県の定数か。
→はい。前期 1 人後期 1 人。
 - ・乗り入れの授業をやっているが、課題はあるか。
→特別支援学級へサポートに行くなどで時間が減ることもある。
 - ・3 ステージ制であるが、それぞれのステージでステージ経営みたいなものがあるか。
→ステージにはステージ長を配置しており、そのステージの実情というものも情報交換しながら、必要によっては指導助言をしている。
 - ・保護者の理解とか地域の願いは、どういうところから出てきたものか。
→この学校を立ち上げたとき、グランドデザインを話し合う際に出てきたものが受け継がれている。保護者アンケートなどから拾いながらリニューアルしている。
 - ・教室が広く、スペースとして普通の学校の 2 倍ぐらいあると感じた。あのつくりのメリット・デメリットとどのように活動しているのかを教えてください。
→空いているスペースについてどういう活用が望ましいかという話は正直できてな

- い。それは担任の裁量になっている。広い分、子どもたちはのびのびやっている。
- ・少人数教育を後期で取り組んでいるが、前期ではしていないのか。
 - 担任の声があり、前期でも取り組んでいる。習熟度別で取り組んでいる。子どもや保護者に説明しながら取り組んでいる。
 - ・少人数教育や教室の使い方など、いろいろ可能性が広がる。授業開発を学校としてどのように推し進めているのか。
 - まず、子どもたちの学年の実態を踏まえ重点的に指導に取り組まないといけない。学年、職員の声を聞きながら今この時期にしっかりと指導をしていかないと、卒業するまで大変だろうというところは、習熟度別で取り組んでいる。ただ、小学校の建物に中学生が入っているの、部屋の余裕はなく、空いている部屋を使いながら習熟度別をしている。
 - ・そういう事情で、教室の使い方や少人数教育でよかった経験や知恵を交流することはあるか。
 - 目指している授業を実現するためには、スクール形式で前に向いているわけではなく、コの字形であったりペア学習であったり必要だということは伝えている。それぞれの学年担任の裁量でやっており、適宜考慮している。
 - ・保護者から心配や気になることなどの話があるか。
 - ある。その話をもとに教員間で情報共有しながら対応している。
 - ・どういうことを一番心配されるのか。
 - メンバーが変わらないことによる人間関係等。
 - ・ここが設立するに際して、8割賛成で2割反対とあったが、統合に反対だったのか、一貫したシステムに対する反対だったのか。
 - そこまではわからない。

たかつき認定こども園視察(14時59分～15時44分)

1. 園内視察

2. こども園から資料に基づいて説明

- ・平成27年4月1日、高月幼稚園と高月保育園が統合して「たかつき認定こども園」として開園した。今年度9年目を迎えた。
- ・規模としては、あざい認定こども園に次ぎ2番目に多い園となっている。
- ・大規模園のよさは、職員が75名いるので、アイデアが豊富であり、多く学ぶことができる。学年が大きくなるとクラスでの集団遊びも経験でき、子ども同士で学び合う機会が多いと感じている。
- ・困ることは、クラスが多いと1日で終わる行事が何日かに増えてしまったり、静かに過ごしたくても刺激が多かったりすることもある。遊戯室などを一度に使えないこともあ

る。職員間ではキッズビューを利用して発信しているが、連携が取りにくい周知しにくいところがある。

・両親がフルタイムで働かれて、長時間保育を希望される保護者が多く、年々長児部率が高くなっている。

・降園時間は、17時の時点で3分の1近くの子どもが残っており、17時30分までは学年ごとに保育をしないとイケない状態。17時30分になって2つの部屋に集まり18時から1つの部屋に集まるようになっている。

・延長保育時間18時15分に20人弱の人数になる。長児部が増えており、なかなか合同保育ができない。パート職員が14時30分から退勤となり、残っている職員で保育を回していくのが難しく、定時の17時後も時間外保育をして何とか回っている状態。

・通園方法は、ほとんどが自家用車で送迎。通園バスが2台あり、今年度は14名と10名、計24名が利用しており、朝は8時50分に到着する。帰りは14時に出発して35分ほど乗車して帰る。

・就学先は、富永小学校、七郷小学校、古保利小学校、高月小学校の4校。今年度は1名だけが速水小学校へ就学する。高月小学校に就学する子が多く、あとの3校は10人前後となる。

・保護者アンケートには、就学に関して、小規模校へ行くので友達関係の固定化を心配する保護者の声を聞いている。

4. 意見交換

・来年度は、七郷小学校が2、3年が複式学級、そして次の年は富永小学校が複式学級と聞いている。

・小学校にあがった時など、どういうことが不安や悩みとして保護者からあるのか。

→就学に向けてが一番大きな悩みだと思う。あとは一般的な子育ての悩みで、高月だからということもなく、子どもとの関わり方がわからないということもある。

・周りに相談する相手がいなくて、1人で悩んでいるのか。

→新興住宅地も多いので、昔からの知り合いが少なく、ここへ来て初めて同級生同士の親さんと喋ったという方もいる。ここの職員に聞いてもらって、ちょっとほっとしたという方もいる。

・子育て支援の相談は、年々難しくなっているのか。

→難しくなっている。家庭の中でも支援が必要な子どもがいる。

・高月中学校区の小学校との連携はあると思うが、それ以外の小学校との連携は。

→高月地区で秋祭りなど学校にわかれて行くことがあるが、それ以外の小学校へ行く子に関して学校の先生と連携をとっている。

・本園の実態と課題に主任児童委員や更生保護女性会の支援協力いただいている

とあるが、具体的には。

→毎月2週日月曜から金曜まで朝、玄関で挨拶運動をしている。更生保護女性会や主任児童委員、交通安全協会から、毎日数名が来てくださる。夏祭りの準備でもお手伝いをしてくださっている。

・中学校区で共通実践や話し合いをされていると思うが、こども園の今の段階で先を見通して取り組んでいることがあるか。

→高月の校園長会で話をし、3部会(学力向上・連携・教育相談)にわかれて、どういう子どもに育てていきたいか連携をとっている。15年間を見据えての取り組みをしている。

・子どもの人数が減っていくので、PTAや更生保護女性会などボランティアの方にお手伝いしていただくのが難しくなると思う。その点で工夫していることはあるか。

→今そこまでは考えてはいないが、これまでと同じことをしていただけないと思う。

・夏祭りなどのイベントについて、保護者の協力を期待しているのか、保護者と地域の繋がりを大事にしているのか。

→本当に子どもたちのために来ておられる。強制ではなくて、来られる方は来てくださいという形でお願いしている。

・全市的に園小接続を進めているが、4小学校の先生方と夏休みや今年度に具体的に接続の中で行き来する計画はあるか。

→去年から互いに参観しており、幼児期の学びが小学校に繋がっているところを先生方も意識できるようにした。今年度はさらに高月の中でどういうふうに育ててほしいかを考えたところ、言葉の育成と思考力の芽生えというポイントに絞って見ていきたいという話になっている。

・職員の数としては結構多いが、管理職としての難しさはどうか。

→職員が多い良さとしては、いろいろなアイデアが生まれることや、一つのことも協力して早くできたこともある。ただ、職員みんなに周知をするのは本当に難しいと思う。